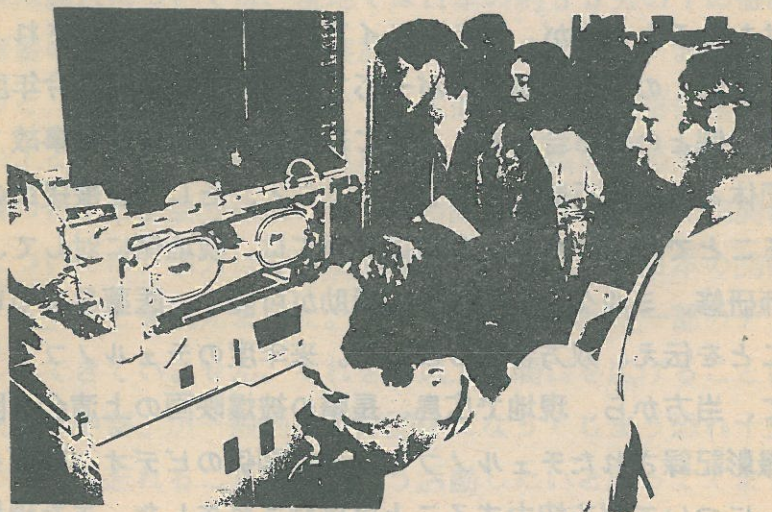


—— チェルノブイリに思いをよせて ——

ポレーシエ

お帰りなさい、ウクライナ訪問団

—— 友好を深めてきました。 ——



ゆりかごキャンペーンで贈られた保育器がこのような有効に使われています。

(国立小児病院を訪問した渡辺代表)

《事務局》〒466 名古屋市昭和区楽園町137-1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：渡辺春夫

【郵便振替】00880-7-108610 (略号 名古屋8-108610も可)

FAX: 052-836-1073 (月・水・金 10:30~15:30)

(問い合わせは、お名前とシールの番号を明記し、返信用切手を同封の上、なるべく郵便でお願いします。)

95年度ウクライナ訪問概要報告

渡辺 春夫

7月14日名古屋空港をたち、7月26日に戻って来ました。ジトーミル州の多くの病院、社会团体、施設、新しい移住者の村、汚染のひどいナロジチ、政府省庁や日本大使館を訪れ、多くの現地情報を得て来ました。ポレーシェ次号より参加者の報告が順次行われ、また各地で報告会が行われますので、ここでは概要を報告します。

今回の訪問の目的は、従来と同様、これまで送った物資の利用状況をチェックすることはもちろんですが、ボランティア貯金の交付も決定され「チェルノブイリ救援・中部」の経済的裏付けが一応できたことにより、今年度事業の執行に関わる現地側との打ち合わせ、そして来年チェルノブイリ事故10周年を迎え、現地団体との共同行動を打ち合わせること、そして医療援助の効果的運用を調査することでした。今年度事業については、現地側に対して、従来通りの規模で医師研修、ミルク・医療機器の援助が可能で、医薬品について、裏付けが厳しいことを伝え、双方合意しました。来年度のチェルノブイリ10周年事業について、当方から、現地で広島、長崎の被爆映画の上演会を開きたいこと、現地で撮影記録されたチェルノブイリ事故関係のビデオ、映画を日本で上演すること、について双方協力することが確認されました。また現地への20人ほどのスタディツアーについても双方合意が行われ、準備活動が今年から開始されます。医療援助の効果的執行については、名古屋市立大学の矢崎医師とフリーの臨床検査技師の松浦さんが今回の訪問に同行され、別グループになって集中的にジトーミル州立小児病院で検査、指導を行いました。矢崎医師（小児科）によれば、小児病院の医師は大変やる気があり、院長も矢崎医師の訪問、レクチャーを歓迎され、実際の診察を行うことも出来ました。「チェルノブイリ救援・中部」の運営スタッフには残念ながら医療の専門家はいませんので、矢崎医師達の助言を受けることで、医師研修および医療物資援助がよりいっそう生かせると思っています。



現地サイドからは援助の対象病院を絞ったらどうか、薬品を現地購入したらどうか、陳情団体に対して援助をするのか、などが提起されました。最初の件については、たくさんの病院にばらまいているつもりはありませんが、結果として多くの州内の病院に援助をしています。これらは何れも現地側の要請を受けて実施したわけですが、各病院の州内での位置、機能を考え、また決して多くはない私達の資金と人材と訪問医師の見解を踏まえ対処していきます。2番目の薬の現地購入については、現地では日本の約30分の1の価格の薬品もあり、資金の効果的運用として実施するという考えと、お金を送るだけで現地購入になると、援助の金だけが働いて、人間との関係や寄付者の気持ちが伝わるだろうか？という意見もあり、日本側でもっと詰める必要があります。次に現地で陳情のあった社会団体（いくつかの障害者団体、孤児院関係団体、赤十字など）については、当方は「直接的援助はできない、日本の関係団体への取りつきはする」ことを伝えました。今でも私達の援助は一部のチェルノブイリ被災者にしかできていません。それを今以上に間口を広げることは、「チェルノブイリ救援・中部」が一般的な友好団体になってしまう恐れ十分です。会の設立趣旨の原点を忘れることがないよう活動したいと思っています。

あなたも維持会員になって下さい

チェルノブイリ救援の活動を続ける為に、事務局の維持費用が必要です。事務量が増え、新しいスタッフも仲間入りしました。是非、事務局維持会員になって下さい。

☆ 維持会員会費 10,000/年（または、1,000/月）

※ 通信欄に“維持会員費”と記入して、救援・中部の口座にご送金を！

フランスの核実験再開の中止を求めます

今年（1995年）6月13日にフランス大統領ジャック・シラク氏は、今年9月から南太平洋ムルロワ環礁で地下核実験を行うと発表しました。

この決定にたいして、すでに実験場に近いポリネシア、オーストラリア、ニュージーランドなどの人びと、および西ヨーロッパの人びとを中心に世界中で激しい反対の声が上がっており、中止要求のデモ、署名、不買運動、抗議船の派遣などの活動が展開されています。日本国内においてもさまざまな市民グループが核実験中止を求めて多彩な活動を行っています。

私たちチェルノブイリ救援・中部はムルロワ環礁でのフランスの地下核実験に反対し、その中止を強く要求します。

私たちは、地球上に生きる一人ひとりの人間として、地球環境を破壊するこの核実験に反対します。過去のムルロワ環礁での地下核実験の結果からも明らかのように、環礁は爆発による衝撃に弱く、無数の亀裂が生じます。核爆発によって生成する死の灰がこの亀裂から海中に漏れ出し、海洋の放射能汚染を引き起こすことは確実です。私たちは、国際社会を構成する一人ひとりの市民として、核兵器の廃絶に逆行するこの核実験に反対します。東西冷戦が終結し、徐々にではあれ核軍縮が進んでいるときに、なぜ核実験が必要なのでしょう。

私たちは、核被害の救援活動を行っている市民グループとして、この核実験に反対します。核兵器によるものであれ、原子力発電によるものであれ、核による被害は根絶されなければなりません。環境への放射能漏出が確実なこの核実験を許してはなりません。

私たちは、フランス核実験に反対する全世界の人びととともに、それぞれが取り得るあらゆる手段を用いてこの核実験を中止させるために活動することを表明します。

1995年7月25日

チェルノブイリ救援・中部

救援・中部ではこの抗議文を、フランス大使館を通じてフランス政府に送りました。

1993年に目の治療のために名古屋に来たドミートリー君のお母さんから、手紙が来ました。要旨は次のようなものです。

私たちはまあまあ“無事に”くらしています。日本から帰った後、勤めていた工場は閉鎖され私は失業、職探しをしなければなりません。大病もしました。物価は上がる一方なのに、給料はそのままです。

お伝えしたいニュースがあります。ディーマ（ドミートリー）が4か月前から日本語を習っています。大学に開設されている日本語のクラスで勉強しています。二年間学ばなければなりません、彼はとても気に入っていて、もう入門期を終え、テキストで勉強中です。

お母さんは、日本語のテキストが手に入らないので日本でお願いしたいと書いてきました。急ぎ1冊取り寄せ、代表団に託しプレゼントしました。

ドミートリー君の目は、長い時間読書するととても痛くなるそうですが、日常生活には支障ないようです。目の障害を乗り越えて、日本語を学んで将来に役立てようと彼は努力しているようです。

あの
ドミートリー君が
日本語を
勉強ちゃう！

ジトーミルの切紙工芸



ハーブ講演会で がんばって神戸!

チェル救・一宮 つぼみを守る会



ローズマリー・ヘリス

4月いっぱいの震災キャンペーンに、一宮としては何もとり組めませんでした。6月はラベンダーを始め種々のハーブの花盛り。このベストシーズンに講演会を開いて救援にならないかな。毎年行っている、一宮生協文化委員会の“ハーブを楽しむ会”を秋にのぼし、今回は震災支援。「参加費1,000円は全て寄付、リースや花束、苗などのお土産が付きます。」という記事が新聞に。

ハーブの育て方、収穫、利用、保存、楽しみ方などをお話しました。

神戸からの報告として、阪神大震災ちびくろ救援ぐるうぶの、村井雅清氏のメッセージを読ませて戴きました。“共生”と“コミュニティー”の大切さを訴える氏の言葉。

「テレビ新聞などメディアでは、ほとんど神戸のことを伝えませんが、忘れないで下さい。私達も、被災者も頑張っています。人として生きて行くために」会場からは、頑張っているの暖かい拍手がおこりました。収益は、参加費の他に、カモミールの種子、クッキー、ポップリなどにカンパをして戴き、71,336円となりました。又、フレンドシップキルトやバザーの出品参加者、クリスマスカード協力者も増え、活動の輪が広がってゆきそうです。会議には中々出席出来ませんでした。一宮、コツコツ頑張っています。

中島 しぐれ



アツアツルミレト



Lavender

ボランティア貯金

2,011万円 配分決定!!



代表 渡辺 春夫

3月31日、交付申請の締め切り。事務局である昭和郵便局へ持参しなければなりません。担当の市川さん（豊橋）と相談し、前年まで一人で申請を処理し「今年は一切ノータッチ」と宣言した河田さんとも相談しながら、95年度事業計画を作成しました。前回の申請書がワープロに入力されていたので、コンバートすればそれをベースにして作ればよいわけですが、現地のリクエストや中部が取り組む力量などを勘案しながら作り上げる必要がありました。一番恐れていたのは不用意なミス。案の定、位を間違えたり、計算ミスが見つかりました。「これが中部の力量だからしょうがない」と私自身は居直っていました。

あとは神頼み… と危惧していたのですがなんとか、それも従来の中部への配布では最大の金額を交付の決定を得ました。

さて今年の配分で特徴的なことは、日本人医師の現地調査費が認められたこと（これには中部のスタッフの渡航費や現地滞在費等を含みます）と運営費の一部として「通信費」が認められたことです。30万円という通信費の配分は、中部としては1回のポレーシェで飛んでしまう額ですが、運営費へ補助をいただけるということは、NGO活動が郵政省や政治や社会一般に認められ、NGOの実情をある程度反映したからではないでしょうか。

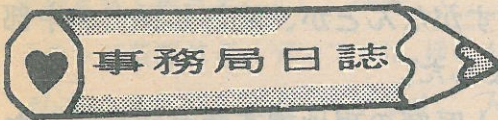
「チェルノブイリ救援・中部」の今年度の事業は、従来からの医薬品援助、医療機器、粉ミルク、医師研修の前述の医師派遣が主なものです。日本国内の医薬品の価格は、現地に入っている薬品の価格と比べ4倍から30倍以上の格差があり、お金の有効利用という点から、機器類の現地調達も検討しているところ です。



本年度の総事業費は4154万円で、ボランティア貯金交付申請額はおおむねその半額と自己規制しています。というのは活動の経済的基礎のほとんどをボランティア貯金に依拠すると、私達自身で金集めをしなくても済むわけで、それは私達の活動を社会一般に知らせなくても済むことを意味します。私達の活動は、支持し、援助してくれる人々があって初めて成り立ちます。中心はあくまでボランティアで市民一人一人の寄付金と参加で成り立つ運動が望ましいと思います。

ボランティア貯金者に感謝する共に、実務にお世話いただいた昭和郵便局のボランティア貯金担当者と同郵便局長に感謝いたします。

今年度はあと2000万円の寄付金を、様々なキャンペーンを通じて呼び掛けることとなります。いつでも寄付金を受け入れていますので、ご協力、ご支援をお願いします。



事務局日誌

('95年4月～7月中旬) 抜粋

- 4月11日(火) 浜松聖隷病院より中古の保育器5台を受け取り、点検のため(株)トーイツ横浜工場へ搬入(渡辺代表)
- 5月7日(日) 岐阜にて運営委員会
- 6月11日(日) 浜松にて運営委員会、ウクライナ訪問メンバー打合せ
- 15日(木) (株)トーイツ東京本社及び横浜工場で中古保育器の修理価格交渉、メンテナンスについても説明を受ける(渡辺代表)
- 17日(土) 星美学園・河合塾で講演会(河田事務局長)
- 23日(金) 昭和郵便局にてボランティア貯金交付式出席(渡辺・山盛)
- 7月2日(日) ECC地球救済キャンペーンの援助金贈呈式に出席(渡辺)
- 3日(月) 阪神大震災の救援活動に対して岐阜県知事より感謝状(チェルノブイリ救援・岐阜)
- 9日(日) 名古屋にて運営委員会
- 10日(月) 矢崎医師とウクライナ訪問団の打合せ

《運営委員会報告》

7月は報告事項や討議の必要な事柄がたくさんありましたので、9日と30日の2回運営委員会を開きました。

報告

- ★ウクライナ訪問団が7月14日予定どおり出発し、現地との交流を終えて25日無事帰国しました。物資に関しては、トラブルを避けるために医療機器などは事前もしくは事後に送るようにしました。
- ★本年度も国際ボランティア貯金の寄付金の配分を受けることになりました。総額2011万円。この内訳についての説明がありました。
- ★「ECC'95地球救済キャンペーン」贈呈式で、100万円の寄付金を頂き、渡辺代表が出席しスピーチを行いました。
- ★チェルノブイリ救援岐阜が、神戸被災者救援に関して岐阜県知事から表彰されました。
- ★チェルノブイリ救援・中部の財政状況について収入の減少が報告され（ボランティア貯金を省く）その対策を話し合う事の必要性が提案されました。
- ★11月、名古屋社会教育センターでチェルノブイリ救援・中部が講座を担当します。その場を生かして、チェル救への理解と協力、参加を呼びかけたいと思います。

議題

- ★来年のチェルノブイリ事故10周年にあたり、いくつかのイベントを企画することになりました。
- ①第1回チェルノブイリ10周年記念国際児童画コンクール・展覧会「チェルノブイリの鐘」。これは、ウクライナ・ジトーミルで既に開催が決定しているものです。チェルノブイリ救援・中部もこの企画とタイアップして日本国内の子どもの絵を募集し、取りまとめて現地へ届けたいと思います。早急に募集要項を作成し、広く呼びかけることになりました。

②スタディツアーの実施を決定

会員の方からも強い要望があり、ぜひ実施しようということになりました。来年の実施に向けプロジェクトチームが発足しました。事前にウクライナの歴史、文化、習慣・ロシア語、ウクライナ語の日常会話・チェルノブイリ事故・チェル救中部の活動などの学習会をプレ・イベントとして企画することになりました。ツアーへの参加はもちろんのこと、プロジェクトチームへの参加も大歓迎です。

③朗読劇の上演～例えば、日本の子ども達と交流を続けておられるウクライナのニーナ先生に脚本を書いて頂き、ウクライナの子どもたちを招いて、日本の子ども達と合同上演してはどうか、と言った案も出されました。

①②について、ウクライナ訪問団が現地で話し合いを持ち、合意に至りました。

★ウクライナ訪問団報告会

ウクライナ訪問団が現地の情報について詳しく報告します。スライドやビデオを使っての楽しい話しがいっぱいです。個人でも団体でも構いません。あなたの町まで出向きますので、ぜひご一報ください。

お知らせ



グリーンピースがフランス政府に対し核実験再開中止を求める緊急署名活動をしています。署名用紙には一言、こう書いてあります。

私は、フランス政府に対し、核実験再開中止を求めます。

締め切りは8月25日、FAXでの返信も受けつけているそうです。署名に参加したいという方は、下記グリーンピース・ジャパンまでお問い合わせ下さい。

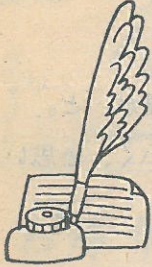
☎ 03-5351-5415 FAX: 03-5351-5417 鈴木 かずえ
〒151 東京都渋谷区代々木1-35-1 代々木会館4階
グリーンピース・ジャパン

ジトミル・ヴィスニーク誌の第一面に 紹介されたウクライナ訪問団

2 стор.

ЖИТОМИРСЬКИЙ ВІСНИК

21 липня 1995 року



МІНУЛОГО ПОНЕДІЛКА ЖИТОМИР З ПРИМАТНИЦЬКИМ ВІДИДАЛА МАРГА, ГРАФІНЯ ГРОТТЕ, УРОДЖЕНА ПРИНЦЕСА ШТЕЙНГАЙН, І ЧОЛОВІК ГРАФ ГРОТТЕ ТА ДІТКА ДІДКА. УРІДЖЕНА ГРАФІНЯ ГРОТТЕ ВОНИ ПОБУВАЛИ ТАКОЖ ІНІ ЧЕРНІВЦІ, ДЕ 1943 РОКУ БУЛО ПОБИТО БАТЬКА ГРАФІНИ МАРГІ.

Сьогодні день народження у члени Союзу українців в Україні з Житомира **Т.ГАНДИОНОВИ**.

Тамара Гандионівна народилася 20 вересня 1927 року в місті Житомир, була першою дитиною в родині. Зараз вона працює у Центрі допомоги, але не втрачає із журналісткою, постійно шукає у газеті «Житомир» іракшину, доклавши чимало зусиль, щоб допомогти їй знайти її дитинку, мати, улюблених.

Вітаємо!

Наступного тижня відомоюся 60 років заступнику редактора рижської районної газети «Рижський вест»

Б.І.ПРИМАЧКУ.

Працюючи в газеті по 10 років, середом вітати Бориса Печенюка із ювілеєм і бажати йому здоров'я, щастя, виснажливого здоров'я, що він і надалі не розлучиться з газетою!

Фонд переселення

«МИ ПОСИЛИМО ДОПОМОГУ» —

СКОПИЛИ НА ПОХІД

ЖИТОМИРСЬКИЙ ВІСНИК

ГЛАВНИЙ РЕДАКТОР: ГРИГОРІЙ КОЛОДЯСЬКИЙ. ВИДАВНИЦТВО: «ВІСНИК» П.С.С.Р. № 29 (536) 21 липня 1995 р.

Видання 1989 р. У липні 1989 р.

«МИ ПОСИЛИМО ДОПОМОГУ» —

РАХУНОК

ФОНД ПЕРЕСЕЛЕННЯ
700123,
АКБ «Полісся»
м. Житомира
МФО 311443.

сказав на прес-конференції голова ради асоціації «Трибілль-Тобу» Харун ВАТІАБАЕ. Сьогодні шостий день перебування в Україні делегації асоціації «Трибілль-Тобу» з Японії. Мета приїзду — висвітлити обстановку на місці, щоб посилити допомогу їм, хто постраждав від аварії на ЧАЕС.



Делегация из Японии в Житомирскую область (в район) прибыла в воскресенье, 17 июля. Встретили их в аэропорту представители администрации области и члены областного совета. Встретили их в аэропорту представители администрации области и члены областного совета. Встретили их в аэропорту представители администрации области и члены областного совета.

На фото: прес-конференция в Житомирском центре культуры (21 июля).



ТИ? З НАМИ В ПОХІД!

Сьогодні (17 липня) делегація японців прибула до Житомира. На місці зустрічі зустріли керівника делегації та керівника області. Зустріч відбулася в аеропорту. Зустріч відбулася в аеропорту. Зустріч відбулася в аеропорту.

Пішхоля ГЕРАСИМУК

暑い！全国一の激暑の岐阜。そんな中での『ポレーシェの編集作業』と書くとともに大変のようですが、実はエアコン付きの部屋で和気アイアイの中で行っています。それに引きかえ名古屋の事務局は窪地にあるアパートの一室、風が通らず扇風機が熱風をかきまぜているだけ。事務局の方々の健康が心配です。（幸）

☞ 2年ぶりに家族で海水浴に行った。 美浜へ！ あ、原発が…と。以前と比べて、海水は汚れていた。だんだんと自然が崩れていく、と思いつつながら子供達と泳いだ。 なんとなく、淋しい気がした。（ま）

☞ 『今日も暑いネ』が合言葉の様になってしまった。セミのコーラスをバックにエアコンの入った部屋での作業極楽！ごくらく！ 早くこおろぎの声が聞きたい。（な）

● 10年間勤めに出ていて、この6月に退社。中2の娘は、「夏休みにお母さんが家にいるのがウレシイ」と言って喜んでいて。しかし、1日中顔を会わせていると時々衝突。スパークする夏はまだまだ続く。（M）

☞ 今日も降水確率0%。やった！ふとん干したまま外出しても大丈夫。今年は冷夏でなくてよかった。でも毎日36度は暑すぎる。（ひ）

お知らせ

- ◆ 救援・中部のTシャツ 一枚 1,500円。ステッカー 一枚 200円。好評です。
- ◇ 救援・中部オリジナルテレホンカード 一枚 1,000円/50度数
- ◆ 『絵はがき』 1セット5枚300円（子供たちからとどいた手紙や絵）
- ◇ 『たった一回の原発事故で』 一冊515円+送料51円（救援・中部編 地湧社）
- ◆ 『とどけウクライナへ～私たちの救援日記』 1,648円（坂東弘美著 八月書館）
- ◇ 現地ジャーナリスト・ネチポレンコさんと小児科医・ライサさんの来日講演録 一部 350円（専門家の解説付）

救援・中部までお申し込み下さい。